

第2回養徳学舎活用検討会 議事概要

- (1) 日時：令和7年1月17日（金）15時00分～16時00分
- (2) 場所：奈良県東京事務所又はWeb参加
- (3) 出席者：○養徳学舎活用検討会委員
朝倉 祐介（Web参加）、植嶋 平治、原田 遼太郎、藤村 聡、
別所 史、安本 直史（五十音順・敬称略）
○奈良県
箕輪東京事務所長
事務局（奈良県東京事務所）
- (4) 概要

1 開会

【会議の公開・非公開の別】

事務局による資料説明までは公開とし、それ以降は非公開とすることを了承

【資料説明】

事務局より、第2回養徳学舎活用検討会資料に沿って説明

【議事録等の作成】

会議の概要を作成することを決定

2 議題

【活用案（素案）への意見聴取】

① 全体

- ・今回の素案は、これまでの議論の内容を盛り込んだものになっており、これをもとに検討を進めることです。

②機能強化について

- ・取組内容の印象として奈良県とどう繋がりを作るかということのみに集約されている。奈良県との繋がりというものもありつつ、人材を育成していくために、県外の人や組織も活用して充実させる取組もあれば良いと思う。
- ・学生が交流の場に参加するためには、学生の意思と費用面の負担をいかに軽減できるかが重要。少しでも費用が発生すると学生はイベントなどに参加しづらいので、学生が交流の場に参加しやすい環境や体制をどう作るかについては、費用面のサポートも重要だと思う。
- ・活用方針については、この通りだと思うが、この中でも強弱をつけた方が良いと思う。中でも、卒寮生（OB）との交流を促進するべきと感じている。養徳学舎

の学生が最もOBと交流を希望するのは就職活動の時だが、現状では卒寮生（OB）を辿るのは困難。このため東京にいる学生が、東京や奈良で仕事を探す時のきっかけとして、OBの方から能動的に働きかけできる環境が作れればと思う。

③女子学生の受け入れについて

- ・アンケート結果等からも女子学生の受入は好意的であると感じる。水回り（風呂、トイレ、ランドリー）の場所や区域を分けることは、運用とセットで必須。
- ・女子学生も寮生活の恩恵が受けられることは、是非やっていくべきと思うが、現場を拝見した際、現状で女子学生を受け入れるための設備整備はかなりハードルが高いと感じた。具体的にどのように整備していくのかについては、知恵を絞る必要がある。
- ・今の世の中では女子学生も受け入れていく方向へ社会も動いていると思うので概ね賛成。
- ・ネガティブな意見として「男子寮の良さがなくなる」とあるが、男子寮特有の雰囲気があって、その点が楽しいと感じるかもしれない。とはいえ共用寮にも特有の楽しさがもちろんあるので、楽しさの質が変わるだけであまり問題がないように思う。男子寮特有の良さもあるが、女子学生を受け入れるべきだと思う。
- ・大学院時代に2つの男女共用寮に住んだことがあったが、どちらも学生の自治寮という形態で運営しているものの、寮を管理している第三者が同じ場所に住んでいたりと、同じ敷地内に事務所を構えていた。、何かあった時にいつでも相談できる環境は必要だと思う。
- ・アンケートでも1/3が寮母の配置が必要と回答されている。私の経験でも学生の中で解決できないトラブルが起こった場合に、舎監や寮母がケアしてくれたことがあった。また、初めての一人暮らしかつ親元を離れるので、舎監や寮母のような方が居ると、送り出す親にとっても、セキュリティー上安心だと感じるのではないかな。
- ・女子を受け入れる際の運用面ももちろん重要だが、同時に、お金はかかるがしっかりと設備は必要。セキュリティーのハード面や管理者の在り方などのソフト面の両輪で考える必要がある。
- ・運営については、舎監のような存在もあるが、もっとプロフェッショナルな業者等に任せるのもいいのではと感じている。
- ・女子学生を受け入れる際は、まとまった人数を受け入れることが大事だと思う。施設内の運用面とセットで、居づらさやマイノリティだと感じる状態になれば、新たなコミュニティとして上手くブレンドされていくと思う。
- ・寮祭に地域の方を招待したり、寮で地域の学生の勉強を支援する取組などを行っているが、女性がいれば、地域の人により参加しやすくなるかもしれない。

④その他検討が必要な事項

- ・現在、定員割れをしているが、2年生以降からの入寮や、あるいは、学生が東京で就活する時に泊まれるホテルのような機能も追加して多機能的にすると、さらに交流が深まるのではないかと思います。

⑤その他

- ・舎監や寮母など寮を管理されている方々の横の繋がりがあれば、(男女共用も含めて)運営のノウハウや設備のデザインのコツについて、経験者から聞いて参考にすることや、アイデアをもらうことができ良いと思う。
- ・記載内容が形骸化しないようにしないといけない。一つずつ具体的に詰めていくと、色々な課題は出てくると思う。ハード面だけでなくソフト面においても課題は多いのではないかな。
- ・現在の案では人の交流がメインになっているが、例えば、今ある図書スペースを活用して、有効活用できる情報(例:「奈良を感じさせるもの」、「これまでの寮の記録集」など)が蓄積していくこともできればと思う。